

基礎生物科学委員会・統合生物学委員会合同分科会の設置について

分科会等名： IUPAB 分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、 主体となる委員会に○印を付ける。)	○基礎生物学委員会 統合生物学委員会
2	委員の構成	5名以内の会員又は10名以内の連携会員
3	設置目的	<p>(設置目的)</p> <p>IUPAB の設立は日本生物物理学会設立翌年の1961年で、その創設には故小谷正雄を中心に日本が深くかかわった歴史的経緯があり、以来 IUPAB の運営に常に尽力してきた。事実 IUPAB 会長、副会長に以下のような人材を輩出し、学術面だけでなく、学術行政の側面でも日本は存在感を示してきた。</p> <p>小谷正雄 (1961～1964、副会長)、江橋節郎 (1978～1981、会長)、郷信弘 (1993～1999、副会長)、永山國昭 (2005～2008、副会長)、永山國昭 (2008～2011、会長)</p> <p>特に本年11月に北京で行われた第17回世界生物物理学大会 (IUPAB) は中国生物物理学会と永山会長の協力のもと世界より2,500名の参加者を集め、成功裏に終わっている。現在世界の生物物理学勢力図は群を抜く米国、次に日本、中国と続きアジアの重要性が高まっている。これからはアジアと一体となって学術、行政の両面にわたり世界に寄与していくことが望まれるが、そのためにも IUPAB に対応する国内委員会 (IUPAB 分科会) の設置は優先課題と考えられる。</p> <p>(主体委員会変更理由)</p> <p>主体委員会変更については生物物理学が科研費細目で基礎生物学に分類されている現況を反映したものである。</p>
4	審議事項	国際純粋・応用生物物理学連合 (IUPAB) への対応に関すること
5	設置期間	常設
6	備考	※上記理由により主体委員会を変更するもの